

|    |    |  |
|----|----|--|
| 中野 | 川本 | <p>今日は中野監督が観たい、みんなに観せたい映画ということで「多羅尾伴内 二十一の指紋」(48 監督・松田定次)を上映しました。みなさん楽しんでいただきたいと思います。この映画をセレクトした理由あたりからお話します。</p> <p>この映画の監督松田定次、脚本の比佐芳武、主演の片岡千恵蔵の三氏にもすごい敬意を表して今日の上映会を捧げたいと思って選ばせてもらったんだ。どうしてこの先輩たちに敬意を表するかっていうと、この映画、現代劇だとみなさん思うでしょ？ところがこれ実は時代劇なんです、完全な時代劇。</p> <p>どういうことかって言うと戦後、マッカーサーのGHQが色んな統制を加えてくる。そんなかに文化の制約だとかあるいは資産家の資産凍結だとか、パージとか色んなことやって、その中で日本映画界に注文が来たのは「時代劇の製作はあいならず」というとんでもない注文だったんだ。何で時代劇がだめかっていうと時代劇って言うのは</p> |
|----|----|--|

「日本封建主義の権化である」と。特に武士道なんてのは「神風特攻隊」を生んだものになるから、再びそれを日本人に教育するなんてとんでもないと。武士道を教育したらいつまたアメリカが攻撃されるかわからないという恐怖に駆られてだと思っただけ、ちょんまげ姿の時代劇は一切いけなという禁止令が出た。

さてちょんまげの禁止令が出たときに先輩たちはどうしたか。これがすごい。つまり「時代劇がだめなら時代劇を別の形で作ってやるうじゃないか」って作り始めたのが松田||比佐||片岡のトリオが作った「多羅尾伴内 七つの顔」(46 監督・松田定次)。つまりアメリカGHQの検査官を欺いて作った時代劇なんです。

なんで時代劇に先輩たちがこだわったかという、昔からあったチャンバラ映画、チャンバラってのは爽快感があつてみんなが血沸き肉踊り日本中の国民が拍手喝采だったわけです。だから子供の遊びも棒きれがあると必ずチャンバラごっこやってやっていたら、チャンバラ映画は痛快だった。

そのチャンバラ映画の痛快さって何かって言うところにはもう理屈抜きの面白さ、絶対

実は時代劇の「多羅尾伴内」

(上映会データ)  
「多羅尾伴内 二十一の指紋」  
1948年大映 監督 松田定次 脚本 比佐芳武  
出演 片岡千恵蔵 喜多川千鶴 大友柳太郎 高田稔

2008年10月12日 (祝・月)  
14:30~ 中野監督推奨作品上映(16ミリ)  
16:15~ 17:30 「中野昭慶映画論」  
ゲスト 中野昭慶監督  
18:00~ 19:00 スーパー銭湯にて中野監督の背中を流す会  
19:00~ 21:00 中野監督のお誕生日祝いの会(飲み放題)

映画&トーク&銭湯&懇親会 フルコースセット券12000円

(イントロダクション)  
グリソムギャングでの特撮上映会のレギュラーゲストの中野昭慶監督。

去年は「世界大戦争」「マタンゴ」「ゴジラ対メカゴジラ」「海底軍艦」と4回もご登壇いただいたのに今年はまだ1回もありません。「これはさびしい!」と思ったグリソム有志による中野監督誕生日記念上映会を開催したいと思います。

上映作品は中野昭慶監督のリクエスト作品。  
お楽しみのため当日までとりあえず作品はシークレットとさせていただきます。

幼少のころあこがれたあのスターの映画か、青年時代に観て映画を志すきっかけになったあの映画か、東宝の職人技が光るあの映画か、師と仰ぐ舛田利雄監督作品か、はたまた中野監督自身の作品で封印されたあの映画か?何が飛び出すかは当日までのお楽しみ!  
トークイベント後は中野監督と銭湯へ!そしてビールを一杯!  
中野監督と裸の付き合いが出来るイベントはグリソムギャングだけ!!